

第1章 元気あふれる産業のまち

第1節 農林業の振興

1 農業〔経営〕

<現状と課題>

- ◆本町の農業は、国内有数の生産高を誇る小麦、大豆、小豆、てん菜、馬鈴しょなどの畑作が大規模に営まれているほか、酪農や畜産、野菜作が行われています。
- ◆経営の安定と生産性の向上をめざし、農業経営の近代化、農作業の合理化などを進めてきましたが、**TPP※交渉への参加**、農畜産物の輸入自由化による価格の低迷、肥料等生産資材の高騰など、農業を取り巻く社会的・経済的環境は、変化が多く、厳しい状況が続いています。**TPPの動向も注視し**、情報を収集し情勢の変化に迅速に対応していくことが必要です。また、経営の安定とともに、担い手や労働力を確保することが必要です。
- ◆近年、安全・安心な農畜産物が求められるなか、土づくりから出荷環境まで、農畜産物を取り巻く生産環境全体への関心も高まっています。栽培方法とともに、~~環境への負荷に配慮した生産環境づくりに努めていくことが~~**環境に配慮した生産環境づくりに努め、クリーン農業を推進することが必要**です。

※TPP:「環太平洋パートナーシップ協定」と呼ばれ、太平洋周辺の加盟国との間で関税などの制限をなくすことで、国境を越えて物が自由に行き来できるようにし、サービスや食品の安全性、医療、雇用、投資などに関するルールや仕組みを参加国間で統一しようとするものです。

<めざす方向>

- ◆農業経営の安定と生産性の向上をめざします。
- ◆収益や付加価値の高い農畜産物づくりに取り組みます。
- ◆音更の農業を支える担い手や労働力を確保します。
- ◆~~安全・安心な農畜産物が安定的に供給できるようにします。~~**環境への負荷に配慮した生産環境づくりに努め、クリーン農業を推進**します。

施策	施策の主な内容
(1) 農業経営の安定化	①持続可能で安定性のある農業経営が展開できる取り組みを進めます。 ②経営の安定をめざし、畑作では新たな高収益作物の導入を進めるとともに、酪農や畜産では効率化、省力化を進めます。 ③法人化について農業者が判断できるような情報提供を行います。
(2) 営農情報や指導の充実	④①営農技術、ほ場管理などに関する情報提供に努めます。 ⑤②生産コストの軽減と効率化をはかるため、農業機械や施設の集団利用を促進します。 ⑥③営農対策協議会を中心に、営農に関する相談や指導に努めます。 ⑦ 出荷体制の確立を支援するため、農畜産物集出荷施設の整備拡充と広域的利用を促進 します。 ⑧④農作物への病害虫のまん延を防ぐため、防止対策を徹底します。 ⑨⑤家畜への伝染性疾病などのまん延を防ぐため、防疫体制と発生農家対策を徹底します。 ⑩⑥農作物への鳥獣被害に対する取り組みを進めます。

(2) (3) 担い手、労働力の確保	<p>①認定農業者制度の活用により、担い手農家の育成をはかります。</p> <p>②後継者を育成、確保するため、研修の開催や活動、交流を促進します。</p> <p>③農業労働力を確保する支援体制をより利用しやすいようにします。</p>
(3) (4) 環境への負荷に配慮したクリーン農業の推進	<p>①クリーン農業※をめざした栽培方法、土づくりを促進します。</p> <p>②環境への負荷に配慮した廃棄物の適正処理、管理、再利用を進めます。</p> <p>※クリーン農業：環境との調和に配慮しながら、安全・安心、高品質な農畜産物を生産、供給する農業のことです、有機農業やエコファーマーなどを指します。</p>
(5) 流通、PRの推進	<p>①出荷体制の確立を支援するため、農畜産物集出荷施設の整備拡充と広域的利用を促進します。</p> <p>②「十勝」や「音更」のブランド確立をめざし、農畜産物のPRを進めます。</p> <p>③音更の農業に関心を持つ人が増えるよう、本町農業のPRを進めます。</p>

<目標指標>

(1) 農業経営の安定化

目標指標名	説明	当初数値	年度	中間数値	年度	目標数値	年度
農業総生産額	<p>「音更町農業概要」の農産および畜産をあわせた総生産額</p> <p>※平成23年度から戸別所得補償制度が導入されるために総生産額の動向が不透明。このため、「現状値」に対する目標値の設定が困難であることから文章表示とした。</p> <p>※農産物の価格及びその結果として得られる農業総生産額について、金額による明示的な目標を掲げることが困難なため、文章表示とした。</p> <p>※TPPやEPA、FTAなどの貿易交渉による今後の農畜産物価格や経営所得安定対策への影響が不透明であり、農業総生産額については、金額による明示的な目標を掲げることが困難なため、文章表現とした。</p>	207.1億円	H21	平成23年度の農業総生産額以上 232.6億円	H26 H25	平成23年度の農業総生産額以上 平成25年度の農業総生産額以上	H32

(2) 担い手、労働力の確保

目標指標名	説明	当初数値	年度	中間数値	年度	目標数値	年度
認定農業者数割合	全農家戸数に占める認定農業者数(戸数)の割合	94.1%	H22	93.4%	H25	99.0%	H32

(3) 環境への負荷に配慮したクリーン農業の推進

目標指標名	説明	当初数値	年度	中間数値	年度	目標数値	年度
エコファーマー認定農業者数割合	全農家戸数に占めるエコファーマー認定農業者数(戸数)の割合	39.0%	H22	39.0%	H25	50.0%	H32
エコファーマー新規認定農業者数	エコファーマー新規認定農業者数(平成27年度からの新規認定戸数)	—	—	—	—	140戸	H32

第1章 元気あふれる産業のまち

第1節 農林業の振興

2 農業 [生産基盤や生産環境]

<現状と課題>

◆本町は、農業生産性の向上をめざし、優良な農地の確保や農地の排水、土壌を改良するための基盤整備に取り組んできましたが、整備されたかんがい施設、明渠排水路については、計画的な更新により維持管理していくことが必要です。整備後数十年経過している暗渠排水については、目詰まりなどにより機能が低下しているため、再整備が必要です。

<めざす方向>

◆補助事業を活用し効果的な基盤整備を進めるとともに、農地の保全、地力の維持、向上に努めます。

施 策	施 策 の 主 な 内 容
(1) 優良農地の確保	①優良な農地を集団的に確保するため、計画的な土地利用を進めます。 ②優良農地の確保や農地の集積をはかるとともに、農地の遊休化を防ぐため、農地流動化の各種制度の導入を進めます。 ③地力の維持向上をはかるため、堆肥や緑肥などの活用を促進します。 ④土壌の飛散を防ぎ農作物を風害から守るため、防風林の機能の維持、向上を促進しますに努めます。
(2) 土地基盤や用排水の整備	①生産性の向上と農作業の効率化をはかるため、暗渠排水、石れき除去、客土などの総合的な土地基盤整備を進めます。 ②幹線、支線明渠排水路の整備とその機能維持に努めます。 ③営農用水の整備、機能維持確保に努めます。

<目標指標>

(1) 優良農地の確保

目標指標名	説 明	当初数値	年度	中間数値	年度	目標数値	年度
担い手農家への農地利用集積状況	町内の農地面積に占める認定農業者など担い手農家が利用権を有する農地の割合	—	—	92.6%	H25	95.0%	H32

(2) 土地基盤や用排水の整備

目標指標名	説 明	当初数値	年度	中間数値	年度	目標数値	年度
明渠排水路の整備	明渠排水路の整備延長	173,949m	H21	177,095m	H26	184,298m 186,245m	H32

第1章 元気あふれる産業のまち

第1節 農林業の振興

3 林業

<現状と課題>

- ◆本町の森林面積は、平成 ~~24~~**25** 年度末現在 ~~11,893~~**11,884**ha で、人工林は ~~4,991~~**5,018**ha となっており、人工林のほとんどはカラマツで占められています。
- ◆森林には、水源のかん養、土砂崩れや地球温暖化の防止など多面的な機能があり、木材の安定供給、雇用の創出など、さまざまなニーズへの対応が林業に求められています。
- ◆町有林のうち、カラマツ人工林はその約9割が間伐および主伐期に達し、資源の利用期を迎えています。
- ◆本町の森林所有者は10ha未満の小規模所有が多く、採算性の問題から脆弱な経営基盤となっており、間伐などの保育や伐採**後の植栽**が手控えられる傾向にあります。~~その結果、森林の持つ多面的な機能の発揮に支障が生じるおそれがあり、間伐などを促進していくことが必要です。~~ **今後は、木材のトレーサビリティを確保し、伐採放棄地を出さないなど持続的な森林管理を行いながら、人・もの・金の地域内循環を確立するため、森林認証を取得し、森林管理水準の改善を行い、森林の多面的機能を高めることが求められています。**

<めざす方向>

- ◆木材の新たな需要の掘り起こしを進めるとともに、森林の持つ公益的機能をさらに高めるため、計画的な造林、保育管理を推進します。**、認証材の利活用の拡大を図ります。**

施 策	施 策 の 主 な 内 容
(1) 育林の推進	①森林の健全育成をはかるため、各種事業の導入により除間伐などを進めます。 ②健全で活力ある森林をめざし、多様な樹種の植栽や育林を進めます。 ③林野火災から森林を守るため、啓発と防火体制の整備を進めます。
(2) 施業体制の充実	①林業の担い手である森林組合との連携に努めます。 ②施業にあわせ、林道の整備と維持管理に努めます。
(3) 森林の新たな活用	①間伐材などの用途拡大のため、新たな需要の掘り起こしを進めます。 ②森林を憩いの場、緑の大切さの啓発の場として活用します。 ③認証材の普及・推進をはかります。

<目標指標>

(1) 育林の推進

目標指標名	説明	当初数値	年度	中間数値	年度	目標数値	年度
新植、間伐した植栽面積	国や道の補助事業や民間事業による森林町有林の植栽・間伐面積(数値は各期間の年平均面積)	植栽: 31.9 3ha 間伐: 273.9ha	H19～ H22 (平均)	植栽: 53.0 15ha 間伐: 286.0ha	H23～ H26/25 (平均)	植栽: 38.0 30ha 間伐: 300.0ha	H27～ H32 (平均)

(2) 施業体制の充実

目標指標名	説明	当初数値	年度	中間数値	年度	目標数値	年度
チーム会議の開催	森林組合を含めた関係機関によるチーム会議の開催数	0回	H22	0回	H25	2回	H32

(3) 森林の新たな活用

目標指標名	説明	当初数値	年度	中間数値	年度	目標数値	年度
認証材の出荷量	町内における認証材の出荷量	0 m ³	H22	0 m ³	H25	1,000 m ³	H32

第1章 元気あふれる産業のまち

第2節 商工業、観光の振興

1 商業

<現状と課題>

- ◆~~本町の商業は、近年、従業員数、年間販売額ともにほぼ横ばいで推移しています。道路交通網の整備や消費者の購買指向の多様化により、コンビニエンスストアや大型店などの進出が進む一方、買い物客の減少や後継者不足などもあって、既存の小規模小売店は減少しています。商業は、活気に満ちた快適なまちづくりを進めるうえで重要な役割を担っており、少子高齢化や多様化する消費ニーズに的確かつ迅速に対応するため、商業者相互や関係機関との連携、協力のもと、商業団体の基盤強化をはかり、ハード・ソフト両面にわたって各種事業を進めていくことが必要です。~~
- ◆~~本町は、音更、木野、駒場、十勝川温泉の複数の市街地が、それぞれの地域特性により発展してきました。音更市街地では、中央通街路の拡幅整備にあわせて、商店街の近代化事業や市街地再開発事業を実施してきましたが、空き店舗の増加とともに市街地の空洞化が進んでいます。また、地域にある小規模小売店の減少により、身近なところで買い物をすることが難しくなっています。高齢化がさらに進むことにより問題が深刻化することが見込まれ、今後の対策が必要です。~~
- ◆~~商店街の活性化は、地域経済の発展のほか地域コミュニティの拠点など、まちづくりの観点からも重要な課題であり、特に音更市街地では空き店舗対策も含めた商店街づくり（にぎわいづくり）が必要です。~~

◆本町の商業は、近年、従業員数、年間販売額ともにほぼ横ばいで推移しています。また、本町は、音更、木野、駒場、十勝川温泉の複数の市街地があり、それぞれの地域特性により発展してきましたが、消費者の購買指向の多様化により、木野地域への大型商業施設の進出が進む一方、それ以外の地域では、買い物客の減少や後継者不足（商業者の高齢化）が重なり、既存の小売店は減少しています。

◆コンビニエンスストアの出店により、通行量の多い道路の沿線では利便性が向上していますが、住宅地域などでは、小規模小売店舗が減少しています。

~~特に、駒場地域では、地域にある食料品店の閉店により、身近なところで買い物をすることが難しくなっています。~~

◆商業は、活気に満ちた快適なまちづくりを進めるうえで重要な役割を担っていますが、個々の商業者が多様化する消費ニーズに対応することは難しいことから、商業者相互や関係機関との連携、協力のもと、商業団体の基盤強化をはかり、~~ハード・ソフト両面にわたって~~各種事業を進めていくことが必要です。

また、~~商業者~~地域に根ざした商店は、地域コミュニティの拠点となりうる潜在的な力を持っていることから、大型店との差別化をはかり、各地域の実情にあった商品やサービスを提供する店づくりが求められています。

<めざす方向>

◆~~商工会への適切な指導が行う経営指導等を、~~支援を通じ、商業者の経営の近代化や安定化をはかります。~~はかるとともに、~~商店街商業者の活性化に寄与する取り組みを推進します。

◆~~少子高齢化や多様化する消費ニーズに対応していくため、~~地域コミュニティの場としての役割を果たし、~~少子高齢化や多様化する消費ニーズに対応していくため、~~各地域の実情にあった商品やサービスの提供が行われるように努めるほか、商業だけではなく地域コミュニティの場としての役割を果たす商店街づくりをめざします。~~サービスを提供する店づくりを支援します。~~

施 策	施 策 の 主 な 内 容
(1) 商業の振興に向けた支援	①商業活動の活性化を促進するため、商工会をはじめとする組織の活動を支援します。 ②商店街商業者の振興につながる企画やイベントを支援します。 ③商店街商業者の活性化をはかるため、音更市街地を主とした空き店舗対策などを進めます。
(2) 商業者の経営安定に向けた支援	①商業者の自主的な取り組みや活動を支援します。

<目標指標>

目標指標名	説 明	現 状 値		目 標 値			
		数 値	年 度	中 間 数 値	年 度	最 終 数 値	年 度
「産業の振興について」の「日常の買い物環境」に対する町民の満足度	平成20年まちづくり町民アンケート(「満足、やや満足、普通」と回答した割合)	81.5%	H20	83.0%	H27	85.0%	H32
年間商品販売額	商業統計調査による卸売業、小売業の年間商品販売額(年間)	800億円	H19	850億円	H26	900億円	H31
「産業の振興について」の「中心市街地のにぎわいづくり」に対する町民の満足度	平成20年まちづくり町民アンケート(「満足、やや満足、普通」と回答した割合)	62.2%	H20	67.0%	H27	72.0%	H32

<目標指標>

(1) 商業の振興に向けた支援

目標指標名	説 明	当初数値	年 度	中間数値	年 度	目標数値	年 度
商工会員数	音更町商工会の会員数	498事業所	H20	572事業所	H26	600事業所	H32

(2) 商業者の経営安定に向けた支援

目標指標名	説 明	当初数値	年 度	中間数値	年 度	目標数値	年 度
町融資利用実績額	商工業振興資金利用実績額(「工業の育成、支援」と同じ目標指標を採用)	2億2千万円 5億3千万円	H21	2億5千万円 4億7千万円 7億9千万円	H26	2億8千万円 4億9千万円 9億5千万円	H32

第1章 元気あふれる産業のまち

第2節 商工業、観光の振興

2 工業、企業誘致

<現状と課題>

- ◆本町の工業は、乳製品や農畜産物加工など主として地域資源を活用した企業が立地しています。既存工業を育成するためには、~~人材育成、異業種交流、情報発信、産学官連携による新事業の創出などが~~既存工業を育成・支援するためには、農商工観や産学官の連携により、新事業の創出や地域資源を活かした~~音更ブランド~~地域ブランドの確立が重要であり、そのための組織への支援が必要です。
- ◆平成12年に造成を開始したIC工業団地は、販売開始から15年が経過し、分譲率が8割を超え、小規模な区画を残すのみとなっており、大規模な区画を必要とする企業の要望に応えられない状況です。長引く経済不況のなか地域間競争の激化もあり立地企業数は鈍化しています。持続的な地域経済の活性化と定住人口増加につなげていくためには、雇用の場を確保するため、企業誘致を積極的に推進するし、雇用の場を確保する必要がありますが、あることから、IC工業団地の拡張整備を進めています。立地後の支援体制が課題となっています。また、高速道路網の整備が進み、により道央圏との交通アクセスの良さに加えや新千歳空港との距離が短縮されることなど、今後は釧路・網走方面と道央圏との中継点としての重要性が高まることなど、本町の立地の優位性を積極的にPRしていくことが必要です。

<めざす方向>

- ◆雇用の拡大や地域の活力を増進するため、既存の工業や地場産業を育成、~~地域資源を活用して地域ブランドの確立をめざす組織を~~支援するとともに、IC工業団地への~~の~~拡張と企業誘致を促進します。

施策	施策の主な内容
(1) 工業の育成、支援	①既存工業を育成するための組織強化を進めます。 地域資源を活用して地域ブランドの確立をめざす組織を支援します。 ②工業振興に結びつく、地域資源の見直しや活用方策を検討するほか研究開発を支援します。
(2) IC工業団地の拡張と、あらたな企業の誘致	①IC工業団地拡張への取り組みを進めます。 ②①工業立地の優遇・奨励制度を活用し、企業の誘致に努めます。 ③②雇用の拡大が伴う企業の誘致に努めます。

<目標指標>

目標指標名	説明	現状値		目標値			
		数値	年度	中間数値	年度	最終数値	年度
「産業の振興について」の「企業誘致や企業活動の支援」に対する町民の満足度	平成20年まちづくり町民アンケート（「満足、やや満足、普通」と回答した割合）	71.1%	H20	74.0%	H27	76.0%	H32
年間製造品出荷額	工業統計調査による製造品出荷額（年間）	575億円	H20	660億円	H26	680億円	H32
「産業の振興について」の「働く場の確保」に対する町民の満足度	平成20年まちづくり町民アンケート（「満足、やや満足、普通」と回答した割合）	49.4%	H20	56.0%	H27	63.0%	H32

<目標指標>

(1) 工業の育成、支援

目標指標名	説明	当初数値	年度	中間数値	年度	目標数値	年度
町融資利用実績額	商工業振興資金利用実績額（「事業者の経営安定に向けた支援」と同じ目標指標を採用）	2億2千万円 5億3千万円	H21	4億7千万円 7億9千万円	H26	4億0千万円 9億5千万円	H32

(2) IC工業団地の拡張と、あらたな企業の誘致

目標指標名	説明	当初数値	年度	中間数値	年度	目標数値	年度
IC工業団地立地企業件数	工業団地造成時からの立地企業件数の累計	21件	H21	25件 29件	H26	30件 35社	H32

第1章 元気あふれる産業のまち

第2節 商工業、観光の振興

3 観光

<現状と課題>

- ◆北海道遺産「モール温泉」を資源とする観光産業は、農業と並んで本町の重要な産業であり、今後も、滞在・交流により多くの経済効果が期待されていますが、宿泊客の減少により、観光振興に投資する財源の確保が難しくなっています。
- ◆観光客入込数は、平成19年度の141万人をピークに、年間ほぼ130万人台から140万人台を維持していますが、経済波及効果の大きい宿泊客延数は、平成8年度の70万人泊をピークに減少傾向が続いており、平成20年度には約50万人泊と減りました。約50万人泊となった平成21年度以降は、宿泊施設の減少等の影響もあり、平成26年度には約44万泊となっています。また、宿泊客の約1割は台湾などアジアを中心とする訪日外国人が占めており、平成17年度までは増加傾向にありましたが、近年は円高や国際的な経済不況などの影響もあり、変動が激しくなっています。近年は円安などの影響で増加傾向にあります。平成32年度の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、訪日外国人観光客の更なる増加が期待されることから、本町でも音更町十勝川温泉観光協会など関係団体と連携し、訪日外国人観光客の誘客事業に取り組んでいくことが必要です。
- ◆旅行の形態が団体型から個人型へと変化しており、顧客ニーズに見合った地域性のある観光素材の開発や地域住民とのふれあいなどの提供が求められています。
- ◆国が、外国人を含む観光振興による交流人口の拡大を重点施策としているなか、本町でも、もてなしの心（ホスピタリティ）を町全体で高めながら、地域資源などを活かした魅力ある滞在型観光素材の発掘や開発、地元客を含めたリピーター（ファン）づくり、新たな顧客の拡大などが必要です。
- ◆温泉街のにぎわい創出と地域活性化を目的として、十勝川温泉中心部の旧ホテル跡地を活用し、新たな集客拠点施設整備や周辺市街地再整備など官民連携の取り組みを進めています。
- ◆北十勝4町（鹿追町、士幌町、上士幌町、音更町）において、北十勝4町広域観光振興連絡協議会を設置し、道東自動車道（夕張・占冠間）の平成23年開通を見据えた道央圏からの誘客事業や道央圏での観光PR事業や十勝管内客を対象とした4町周遊バス運行事業など、「温泉」「景観」「食」といった4町ならではの観光資源を活用した観光振興事業、旅行雑誌などへのPR事業を実施しています。このような広域連携も含め、時代のニーズに即応できるように前向きに取り組んでいくことが必要です。

<めざす方向>

- ◆音更町十勝川温泉観光協会など関係団体と連携し、本町への観光客誘致の取り組みを進め、交流人口増加をはかります。
- ◆北海道遺産「モール温泉」や十勝川温泉の知名度向上への取り組みを強化します。
- ◆「また来たくなる温泉」「滞在したくなる温泉」「住みたくなる温泉」への地域イメージづくりを進めます。
- ◆道東自動車道を活用した道央圏、国際化する新千歳空港からの道外客、外国人客の誘客を強化します。
- ◆花と緑地域の歴史を活かした温泉街の景観づくりと、~~旧ホテル跡地~~新たに整備される新たな集客拠点施設やフットパス※、電動自転車などを活かしたにぎわいのある温泉街づくりを進めます。
- ◆地域資源を活用し、新たな視点で時代のニーズに即応できる組織と人材を育成します。

※フットパス：牧場や森林、田園地帯などの風景を楽しみながら歩くことができる、歩行者専用の道のことです。

施策	施策の主な内容
<p>(1) 交流人口の増加に向けた観光振興事業の推進</p> <p>より心地良い観光地化に向けた環境の整備</p>	<p>①観光客の滞在や交流をはかるため、異日常、非日常を感じ、歩きたくなるような十勝川温泉市街の緑化や基盤整備、中心市街地の再生を進めます。</p> <p>②観光客の利便性向上のため、道央圏や道東圏などを結ぶ二次交通※や地域内移動などの充実に努めます。</p> <p>③「モール温泉」を有効に活用するため、集中管理体制の強化や新エネルギーの導入、低炭素化社会への取り組みを進めます。</p> <p>※二次交通：空港や鉄道駅から観光地までを結ぶ交通手段のことです。</p>
<p>(2) 観光客をもてなすサービスや体制の充実</p>	<p>④①国際化、広域化に応じた対応した観光客受入環境整備とサービス・企画などをの充実、させます。他地域との連携による新たな広域観光ルートの形成を進めます。</p> <p>⑤②滞在型観光化を促進するため、参加・体験型観光メニューの充実や人材育成をはかります。</p> <p>⑥③観光関連団体の連携強化、観光協会の育成と支援をはかります。</p> <p>⑦④町全体が温かく観光客を迎え、かつ集客効果の高い観光イベントを、観光協会などとの広域的な連携をもはかりながら構築します。</p>
<p>(2) (3) 音更の魅力の活用、PR</p>	<p>①より魅力ある観光地づくりを進めるため、環境整備、食、企画などに積極的に地域資源を活用します。</p> <p>②観光地としての魅力を伝え、情報をよりの確、迅速に発信する取り組みを進めます。</p> <p>③音更の魅力や「モール温泉」の良さを、また来たくなる要素として活かせるような、地域資源を活用した土産・特産品ニーズの把握、商品開発支援などの取り組みを進めます。</p> <p>④音更町商工会と連携して、音更メロディーライン※沿線の音更町らしい景観や食、地域資源との融合により音更町の新たな魅力発信を進めます。</p> <p>※音更メロディーライン：音更帯広インターチェンジから十勝川温泉までの観光ポイントを結ぶ、町道の名称です。</p>

<目標指標>

(1) 交流人口の増加に向けた観光振興事業の推進

目標指標名	説明	当初数値	年度	中間数値	年度	目標数値	年度
観光入込客数	全国観光統計基準及び北海道観光入込客数調査要領に基づき報告する実人数(年間)	1,329,800人	H21	1,590,000人 1,402,500人	H26	1,660,000人 1,461,000人	H32
宿泊客延数	全国観光統計基準及び北海道観光入込客数調査要領に基づき報告する宿泊客延数(年間、含外国人)	503,100泊	H21	520,000泊 440,800泊	H26	550,000泊 459,000泊	H32

(2) 音更の魅力の活用、PR

目標指標名	説明	当初数値	年度	中間数値	年度	目標数値	年度
観光協会ホームページアクセス数(ページビュー数)	音更町十勝川温泉観光協会ホームページの各種項目(イベント・宿泊・アクセス・食事など)への閲覧アクセス数総計値(年間)	338,308件	H21	507,000件 699,714件	H26	676,000件 710,000件	H32

第1章 元気あふれる産業のまち

第3節 連携による産業の振興

1 産業連携

<現状と課題>

- ◆近年、国などの支援もあり、農商工連携や農林漁業の6次産業化などの取り組みが全国的に進められています。本町でも、農畜産物の直売や加工品の製造、観光と農作業体験が結びついた観光メニューづくりなど、産業の特性を活かした取り組みが増えています。
- ◆本町は、産業間相互の連携により新たな商品開発や事業創出が進むように支援しています。
- ◆現在は、農畜産物の付加価値を高める取り組みが中心ですが、今後は観光も含めた農商工観連携をはじめ、産学官連携などを積極的に推進し、経済の活性化や雇用の拡大につなげていくことが必要です。
- ◆町では、平成24年度に音更町第1次食育・地産地消促進計画を策定したほか、平成25年度には町や両農協、商工会、観光協会で構成する音更町食のモデル地域実行協議会を設立し、農業団体や学校などと地産地消*や食育*を推進しています。今後は、農業団体や学校、流通・加工業者などの連携による取り組みや、産業振興以外にも地域の活性化に結びつく取り組みを進めていくことが必要です。

※地産地消：「地域生産・地域消費」を略した言葉で、地域で生産されたものを、その地域で消費することです。

※食育：健全な食生活、食文化の継承などを目的に、自らの食について考える習慣や食に関する知識、食を選択する力などを身に付けるために行う教育のことです。

<めざす方向>

- ◆農商工観連携で、相互の経営資源を活用する取り組みの支援を行います。

施策	施策の主な内容
(1) 農商工観連携の推進	①新事業の創出を目的とした異業種間の交流や農商工観連携を進めます。 ②農畜産物の高付加価値化をめざし、産学官との連携による研究を進めます。
(2) 連携による取り組みの推進	③①音更の特性や強みを活かした、音更ならではのグリーンツーリズム*を進めます。 ④②農業と観光の異業種連携強化による新たな観光素材の発掘や地域ブランド確立に向けた商品化を進めます。 ⑤③「地産地消」や「食育」の視点から、関連する取り組みを進めます。 ⑥④農畜産物や地場産品などの販売や音更の食や農業をPRに接する機会を増やすため、新たに魅力を発信する拠点づくりに努めます。 ※グリーンツーリズム：農山村など自然豊かな地域に滞在し、地域の人たちとの交流や農林業体験を通して、その地域の自然や文化に触れる余暇の過ごし方をいいます。

<目標指標>

(1) 農商工観連携の推進

目標指標名	説明	当初数値	年度	中間数値	年度	目標数値	年度
魅力発信拠点の数	特産品などの発信施設数(移転改築などを含む)	2 か所	H21	2 か所	H26	2 か所	H32
新たな特産品などの研究開発支援数	特産品研究開発補助産業振興支援事業などによる助成件数(目標値は各期間の年平均件数)	1 件	H21 (単年)	2.25 件	H23~ H26 (平均)	4 件	H27~ H32 (平均)

第1章 元気あふれる産業のまち

第4節 消費者、勤労者の保護

2 勤労者福祉

<現状と課題>

- ◆社会経済情勢の低迷により、国内の雇用情勢が悪化する一方、少子高齢化の進展や産業構造の転換による労働力需給構造の変化、また、女性の社会進出や非正規雇用の増加による雇用形態の多様化など、勤労者を取り巻く雇用環境は以前に比べて複雑になっています。
- ◆本町では、地域資源を活用した新たな産業や既存産業の振興のほか、企業誘致による多様な雇用の場の確保と労働環境の整備が求められています。

<めざす方向>

- ◆勤労者福祉制度の充実に努めるとともに、勤労者が~~健康で快適に就労できる環境づくりを進めるため~~、**ゆとりある暮らしを実現でき、健康で安心して働ける環境づくりを進める**ほか、労働相談体制を充実させ、企業誘致による雇用機会の拡大と、生活の安定をはかります。

施 策	施 策 の 主 な 内 容
(1) 勤労者の環境向上の支援	①勤労者福祉に関する各種制度の加入促進と助成の充実をはかります。 ②勤労者の生活と労働環境を向上させるため、労働相談業務を進めます。
(2) 就業、雇用の支援	①勤労者が労働に関する知識や技術を向上できるよう、機会の提供に努めます。 ②各種制度資金の活用を推進し、雇用機会の拡大に努めます。 ③季節労働者の通年雇用を促進します。

<目標指標>

目標指標名	説明	現状値		目標値			
		数値	年度	中間数値	年度	最終数値	年度
とち勤労者共済センター加入率	町内事業所会員数を町内従業員数で割った比率。従業員数は企業統計調査(平成22年度からは、経済センサス)	2.5%	H21	5.0%	H26	7.5%	H32
労働相談件数	労働相談窓口で受けた相談件数(年間)	33件	H21	50件	H26	50件	H32
季節労働者数	季節労働者の数(年間)	827人	H20	660人	H26	600人	H32

<目標指標>

(1) 勤労者の環境向上の支援

目標指標名	説明	当初数値	年度	中間数値	年度	目標数値	年度
とち勤労者共済センター加入事業所数	とち勤労者共済センター(あおぞら共済)に加入した町内の事業所数	53事業所	H21	70事業所	H26	90事業所	H32

(2) 就業、雇用の支援

目標指標名	説明	当初数値	年度	中間数値	年度	目標数値	年度
通年雇用化数	季節労働者のうち通年雇用者となった人数(累計)	10人	H21	67人	H26	110人	H32